

地域中核病院の健康教育に関する出前講座の実態調査 ～出前講座の講師と講座の企画者の意識に着目して～

Research Regarding the Meaning of Health Educational Activities Conducted by Regional Core Hospitals for the General Public

— Based on a survey conducted among the lecturers and organizers of traveling lectures —

永瀬悦子*

Etsuko Nagase

Hospital A, which is located in a core city with a population of approximately 330,000 in Fukushima prefecture, began offering lectures in 2001 regarding physical examinations in the field of preventive medicine, with the aim of raising health awareness among local residents. Both the number of lectures conducted and participants attending are growing. I conducted a survey among the lecturers and lecture organizers in order to clarify the role of the health education activities (traveling lectures) conducted by the hospital for the general public. The survey found that because the hospital is multidisciplinary, the traveling lectures covered a wide range of themes in response to health issues and developmental challenges. Although audience members do not necessarily visit the hospital affiliated with the lecturers, the lectures have contributed to sharing knowledge. Providing the community with professional medical expertise is a role of community-based hospitals. The traveling lectures embody expanding hospital functions for health maintenance and promotion.

I. はじめに

1986年のオタワ憲章において提唱されたヘルスプロモーションの台頭以来、「健康づくり」は個人の行動変容を期待するだけでなく、地域全体で健康づくりに取り組み、組織や政策等の変容が求められている。健康教育は「対象者の健康に対する関心や知識の底上げを図り、健康な行動様式を選択し実践する方向付けをする目的があり、一定数に一斉に行われるため共通の認識を作ることが可能である」¹⁾といわれている。

縣市町村自治体をはじめとした行政機関や大学等の教育機関、一般企業、病院という医療機関においても「出前講座」「出張講座」「派遣講座」等の名称で、地域に出向きそれぞれの特殊性を生かした学習活動を支援している。

* 幼児教育学科

福島県の人口33万中核都市にあるA病院(地域中核病院)は平成13年度より予防医学領域である健診部門で、地域住民の健康に関する意識向上を目的とした出前講座に取り組み10年以上経過している。平成13年度は8講座実施し参加人数は563人(延べ人数)であったものが、平成23年度は103講座実施し3,837人(延べ人数)の参加者数があり、実施講座数及び参加者数共に増加傾向にあった。講座数と参加人数が急増しているということは、それだけ地域住民のニーズがあり講座が定着してきた評価であると考えられる。

病院における出前講座の報告²⁾には、岐阜県飛騨市の飛騨市民病院の出前講座がある。北アルプスや飛騨山脈等の山々に囲まれた人口3万人の過疎化・高齢化した地域における出前講座の実態をみていくには興味深い、実施回数は年間10件であり少数である。

地域中核病院の出前講座の実践報告^{3) 4)}には、長野市民病院の取り組みがある。その病床数は400床であり、A病院(430床)と比較すると若干少ないが、平成17年より開始して5年間で171回、5,024名の参加者がある。かなりの盛況で、長野県知事より表彰を受けるといった報道⁵⁾もあることから地域貢献の様相が伺える。その中では、出前講座の講師を担当する医療職が「限られたスタッフの中でやりくりをして務めるため、やむを得ず断った。出前講座から集患にも結びつけられたいという思いがあった」⁶⁾という講師の意識についてふれているが数量的なデータではない。また出前講座の受け手である企画者の意識といったことにもふれていない。病院における出前講座の内実をみていく必要がある。

筆者は病院における出前講座の講師と講座の企画者の意識を知ることが、病院が地域に密着した活動を展開する糸口にもつながると考えている。本稿の目的は、A病院における出前講座の講師とその講座の企画者の意識を明らかにすることである。

II. 研究方法

1. 調査日：平成24年6月～8月下旬。
2. 調査対象者：①平成17年～平成23年の間にA病院に申し込みをした団体69件。内訳は保育所・幼稚園4件、小学校12件、中学校16件、高等学校3件、専門学校2件、公民館24件、企業4件、自治体2件(社会福祉協議会)、自主活動グループ1件、その他1件。
②平成17年～平成23年の期間中に担当した講師は39名。
3. 調査方法：出前講座の講師とその講座の企画者の意識調査票は、郵送法による無記名自記式調査を実施した。回収は調査用紙を郵送した時に返信用封筒も同封し、返信を依頼した。

4. 調査内容

- 1) 講座の企画者の調査内容：①出前講座を知った方法と利用した理由 ②出前講座の良い点・改善点 ③出前講座利用後の受講者の受診行動について ④今後の出前講座に参加希望の有無。
- 2) 出前講座の講師の調査内容：①出前講座を担当した感想 ②今後依頼があれば引き受ける意思の有無とその理由 ③出前講座に向く際の妨げとなる要因 ④講師が考える出前講座の良い点・改善点。

5. 分析方法：数量は単純集計、自由記述は自由記述内容別に分類してカテゴリー化した。

6. 倫理的配慮：対象者に対し研究目的と意義および倫理的配慮を記載した依頼文を用いた。目的や趣旨、匿名性の厳守、研究協力の承諾は個人の自由意思によること、拒否をしても何ら不利益を被らない旨を文書に明記した（A病院に事前に承諾を得て実施した）。公表に際して、A病院は匿名を希望されたため、その意思をくみ匿名とした。また、文書を通して承諾を得た。

Ⅲ. 結果

1. 講座の企画者の意識

平成17年～平成23年の期間中に申し込みをした団体69件のうち、回答が24件得られた（回収率：34.8%）。

1) 出前講座を知った方法と利用した理由

出前講座を知った方法（複数回答可）については、「友人・知人・同僚・家族など知り合いを通じて」（11人）、「ホームページ」（8人）、「広告等のちらし」（8人）、「その他」（4人）であった。

出前講座を利用した理由（表1）によると、出前講座を利用した感想で1番多いのは、【専門職の説明】（7件）であり、その内容には「専門家の指導を受けさせたかった」「医師の講義を受けたいという希望があった」があった。次に、【充実した内容】（5件）、【講座に適した内容】（3件）、【健康課題に関する関心度】（2件）、【豊富なメニュー】（2件）等があった。

2) 出前講座の良い点・改善点

病院の医療職が地域に向き健康教室を行う良い点・改善点の回答を、類似する自由記述内容別に分類した結果を以下（表2）に示す。一番多いのは、【現場で活躍している専門職の説明を聞ける機会】（7件）、【住み慣れた環境で学習ができる】（5件）、【受診行動につながる期

地域中核病院の健康教育に関する出前講座の実態調査

表1 出前講座を利用した理由(複数回答可) N=24

カテゴリー	記述内容	記述数
専門職の説明(7)	・専門家の指導を受けさせたかったから	2
	・管理栄養士や助産師という専門の方でしかも現場で勤務している方の講話が聞けるのが魅力	1
	・命の誕生の現場を知り尽くしている助産師の知識や経験を生かして子どもたちへの命の大切さなどについてお話ししてもらえる	1
	・身近な問題と気づかせたい	1
	・性教育を生徒に聞かせたいから	1
	・医師の講義を受けたいという希望があったため	1
充実した内容(5)	・安価であり内容も充実しているため	2
	・病院の健康教室だと受講生の関心があると思われるため	1
	・生徒(中学生対象)への一斉指導で効果的な内容であると思ったため	1
	・内容が充実していてこちらの企画に合っていたから	1
講座に適した内容(3)	・学校側の意図とする講義内容に合うテーマがあった	2
	・高齢者学級の講座にあったテーマだった	1
健康課題に関する関心度(2)	・委託事業で行っているものをみて利用したいと思った	1
	・放射能が児童生徒に与える影響と対処法に興味があったため	1
豊富なメニュー(2)	・いろいろなメニューがあり選びやすかったから	2
利用後の良い評価(2)	・昨年利用して大変良かった	2
健康課題に取り組む必要性(1)	・歯科健診を受けてその結果を反映した正しい知識と意識付けをさせたかった	1
健康教室の目的が明確(1)	・目的がしっかりしている	1
身近に感じる病院(1)	・総合的な学習の時間における食育講話として身近な地域の病院でもあるため	1

※類似する自由記述内容に分類した結果をカテゴリー分けした。()内は総数である。

待】(4件)、【医療職の話聞く機会がない人への啓発】(2件)、【聴講者が参加しやすい】(2件)、【病院が企画する内容への安心感】(1件)、【新しい情報が得られる期待】(1件)、【顔なじみになり相談しやすい】(1件)があった。改善点には、【プレゼンテーション能力の不足】があげられた。

3) 出前講座の利用後の受講者の受診行動について

「出前講座の利用後に、その講師の所属先の病院へ『行きやすくなった』などという変化を感じたか」という質問に対して「ある」が50%、「どちらともいえない」が46%、「ない」が4%であった。「ある」と答えた理由としては「講師と話すことで病院がより身近になった」「講師が同じ視点で丁寧に答えてくれる」「講師の人柄がよく信頼向上した」があった。また、

地域中核病院の健康教育に関する出前講座の実態調査

表2 病院の医療職が地域に出向き健康教室を行う良い点・改善点(複数回答可) N=24

カテゴリー	記述内容	記述数
現場で活躍している専門職の説明を聞ける機会(7)	・実際に業務に携わっている人から話が聞けるので良い	1
	・現場を知っている	1
	・医療現場の専門的な話が聞ける	1
	・第一線で活躍されている医師や看護師、心理士等の話が聞けることは学校教育では得られない知識を得ることができる	1
	・実際の臨床現場の話を交えながら健康教室を実施することにより説得力のある内容にできるのではないかと思う	1
	・現場を知っている方が話すので現状に合っている	1
	・具体的な内容、現状を理解した上で予防法など具体的な対応について理解することができる	1
住み慣れた環境で学習ができる(5)	・日常生活の場にながら専門家の話が聞ける	4
	・自分の住んでいる地域に集まって、近い場所で比較的楽にお話を聞くことができるため特に高齢者には喜ばれている	1
受診行動につながる期待(4)	・専門的アドバイスが受けられる点	2
	・地域の人々に広く健康について理解してもらえる	1
	・医療(受診行動)につながる	1
聴講者が参加しやすい(2)	・受講生が病院に行くのではなく地域に来てもらえることで参加しやすい	2
医療職の話を聞く機会が少ない人への啓発(2)	・病院外で医療職の話を聞く機会があまりないので良い経験になると思う	1
	・郡部など公的なサービスが少ない地域で講師が来て下さることは大変ありがたい	1
顔なじみになり相談しやすい(1)	・顔なじみになり相談しやすくなった	1
新しい情報が得られる期待(1)	・新しい情報をもっている	1
事前に日程調整して臨める(1)	・出前講座は日程を配慮したり資料も充実しているため気軽に申し込みができる	1
病院が企画する内容への安心感(1)	・病院が企画してくれるので安心感がある	1
プレゼンテーションの能力の不足(1)	・話術で聞く人をひきつけることができればなおよい	1

※類似する自由記述内容に分類した結果をカテゴリー分けした。()内は総数である。

「地域に貢献している病院の取り組みがみえた」「地域の予防医学に力を入れている」といった意見があった。

4) 今後の出前講座の利用の有無

「今後も『出前講座』を利用したいと思いますか」という問いに対して、「利用したい」が96%、「どちらともいえない」が0%、「利用したくない」が0%、「無回答」(4%)であった。

地域中核病院の健康教育に関する出前講座の実態調査

表3 出前講座の講師を担当した感想(複数回答可) N=32

カテゴリー	記述内容	記述数
地域貢献ができる良い機会(4)	・病院内だけでなく地域で活躍できることは素晴らしい ・地域へ貢献できる機会となる仕事なので重要である ・地域の方々になんか少しでも役に立ちたい	2 1 1
多くの方と接する有意義な時間(3)	・いろいろな方と接することができ有意義な時間だった	3
受講者増加の期待(3)	・できるだけ多くの人に来てほしい	3
自己研鑽となった機会(3)	・自分も勉強になった ・公民館の役割を知ることができ予防医学の楽しさや大切さも学ぶことができた	2 1
講師が感じるやりがい(3)	・やりがいがある ・参加者の笑顔等いい反応がみられると「準備は大変だったがやってみて良かった」と感じる ・対象者の反応がやりがいを与えてくれるので今後も依頼があれば続けていきたい	1 1 1
教育評価ができないことの不安(3)	・聞いて頂いた方に理解してもらえたか、満足してもらえたかなど気がかりである ・興味があっても何を学んだら良いかわからない人がある ・健康教室の内容を理解して聞いてもらえているか、対象年齢が高齢のため疑問が残るが興味・関心をもっている様子が伺えた	1 1 1
楽しくできた講話(2)	・地域住民の方々がとても元気で和気あいあいの雰囲気の中で楽しく講師をさせて頂いた ・大変楽しく講義をさせて頂いた	1 1
自分自身の成長(2)	・引き受けて良かった他者に教えるということは自分自身の勉強になると思ったから引き受けた	2
知名度の向上(2)	・病院を歩いているとよく頭を下げられるようになった ・地域を歩いていると声をかけられる	1 1
健康の知識の普及(2)	・最近では歯周病が全身の健康状態に強い影響を与えることが知られている ・元気に健康を維持するには口腔内にも関心をもつことが知られてきたのではないかと感じた	1 1
良い経験(1)	・失敗から学びがあり良い経験となった	1
参加者の良い評価(1)	・参加者から参考になった、聞いて良かったと言ってもらえることが多い	1
講話に対する良い自己評価(1)	・実習も含め目に見える教室だったと思う	1
予防医学の大切さ(1)	・一人でも多くの方が健康や健診に興味をもってくれることを期待	1
モチベーションの向上(1)	・助産師としてのモチベーションが上がる	1
喜んで頂いた嬉しさ(1)	・たくさんの方から喜んで頂けると嬉しい	1
病院の宣伝(1)	・宣伝にもなるし良いと思う	1
外来受診者が増加することへの期待(1)	・患者の掘り起こしとなり外来受診に結びついてほしい期待がある	1
受講者の高い健康意識(1)	・健康に興味をもっている人が増えていると感じた	1
健康課題の高い関心(1)	・口腔内への関心をもつ人が増えていると感じた	1
仕事の調整が困難(1)	・時間を作るのが大変だった	1
事前準備の負担(1)	・業務の都合をつけて資料作りなどは自宅で行っているため負担になる	1

※類似する自由記述内容に分類した結果をカテゴリー分けした。()内は総数である。

2. 担当した講師の調査結果

調査依頼は、平成17年～平成23年度の期間中に担当した講師（現任の職員）39名のうち32名から回答が得られた（回収率：82.1%）。

1) 出前講座を担当した感想

出前講座を担当した講師の感想（表3）は、【地域貢献ができる良い機会】（4件）があった。その内容には「病院内だけでなく地域で活躍できることは素晴らしい」「地域の方々に少しでも役に立ちたい」があった。その他に【多くの方と接する有意義な時間】（3件）【自己研鑽となった機会】（3件）あった。

その反面、【教育評価ができないことの不安】（3件）、【事前準備の負担】（1件）、【仕事の調整が困難】（1件）等のデメリットもあった。また【受講者の高い健康意識】（1件）や【健康課題の高い関心】（1件）、【外来受診者が増加することへの期待】（1件）、【病院の宣伝】（1件）というカテゴリーもみられた。

2) 今後、依頼があれば講師を引き受ける意思の有無とその理由

「今後、講師を引き受ける意思」は、「今後も引き受ける」（87.6%）、「今後は引き受けたく

表4 講師を引き受ける理由（複数回答可） N=32

カテゴリー	記述内容	記述数
条件(6)	・仕事の調整がつけば引き受ける	3
	・依頼があれば行う	2
	・回数が多くないのであれば何とかなる	1
地域貢献意識(5)	・自分の専門知識を地域の方に役立ててほしい	4
	・地域貢献したい	1
健康教育の必要性(3)	・地域のリハビリテーションの一環として関わっていく必要性を感じる	1
	・必要と考えるため	1
	・思春期の健康教育の必要性を感じるため	1
モチベーションの向上(2)	・モチベーションを高めるため	2
医療職が関わる必要性(1)	・子どもたちに命の大切さを伝えていく必要性を感じるから	1
医療人としての責務(1)	・医療人としての責務である	1
参加者との楽しいふれあい(1)	・参加者との交流・ふれあいが楽しい	1
健康の維持・増進(1)	・口腔内の意識付けのため	1
自己啓発(1)	・自己の勉強の機会となるため	1
業務に生かせる地域住民の声(1)	・院外の活動はストレートな現状、声が聞けるので参考になるから業務に生かせる	1
健康教育の興味(1)	・興味がある	1

※類似する自由記述内容に分類した結果をカテゴリー分けした。()内は総数である。無回答もあった。

ない」(9.3%)、「回答無し」(3.1%)であった。

「講師を引き受ける理由」(表4)としては、【条件】(6件)があり、その内容は「仕事の調整がつけば引き受ける」等があった。その他、【地域貢献意識】(5件)、【健康教育の必要性】(3件)、【参加者との楽しいふれあい】(1件)といったカテゴリーがみられた。

3) 出前講座に出向く際の妨げの要因

出前講座に取り組もうとする際に妨げとなる要因(表5)については、「仕事の調整がつかない」「出先の場所がわからない又は遠方である」等があった。

表5 出前講座に取り組む際に妨げとなる要因(複数回答可)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・業務時間中に出前講座の準備ができず休日に資料を作っている。・出先の場所がわからない又は遠方である。・仕事の調整がつかない。・自分の代わりに業務する人がいないので周りに迷惑をかけるし自分の仕事も片付かない。・パワーポイントの不具合等。・特にない。・出前講座へ出かける際、日勤扱いにしてもらっているが自分が病棟を離れることで多忙に拍車がかかることを気にかけてつ出かけるのは少し辛い時がある。・自分の仕事を他の人に代わってもらわないと出かけられないので申し訳ない気がしている。 |
|---|

4) 出前講座の良い点・改善点

医療職が地域に出向き健康教育を行う良い点(表6)は、【正しい知識の提供】(4件)、【病院の宣伝】(4件)、【予防医学の提供】(4件)、【顔が見える安心感】(4件)、【病気の対処行動に関する知識の提供】(2件)、【受診行動のきっかけに対する期待】(2件)があった。【病院と地域を繋ぐ人脈】(1件)、【受講者が住み慣れた環境で仲間と共有】(1件)、【医療者が地域生活を知る機会】(1件)といったように、与えるだけでなく学ぶ機会にもなっていることを表す意見もあった。更に、【地域貢献】(1件)や「病院という現場で見te感じたことは、その者でなければ伝えられない」といった【医療者としての責務】(1件)があった。

地域中核病院の健康教育に関する出前講座の実態調査

表6 出前講座の講師が考える病院職員が地域に出向き健康教育を行う良い点及び改善点(複数回答可) N=32

カテゴリー	記述内容	記述数
正しい知識の提供(4)	・正しい医学的知識が得られる	4
病院の宣伝(4)	・病院の地域に対する取り組みを理解してもらえる	3
	・自己啓発及び病院の広報にも役立っている	1
予防医学の提供(4)	・地域の方々への病気に対する啓蒙	2
	・予防や自分でできる対応などから関わるができる	1
	・予防に関する知識や技術を伝えることができることが重要である	1
顔が見える安心感(4)	・医療者と地域がより身近になる	1
	・「そこに行けば病院がある」「そこに行けば顔なじみの人がいる」という安心感を与える	1
	・医療職と接することで病院の情報収集や病院に対しての不安が軽減される	1
	・地域住民との距離がとても近く感じられる	1
根拠のある知識の提供(3)	・根拠に基づいている	3
病気の対処行動に関する知識の提供(2)	・予防や早期発見に役立つ	2
地域に対する病院の姿勢表明(2)	・当病院の地域を大切にしたいという姿勢が受け取れる	1
	・乳がん検診、診療において病院がリーダーホスピタルであることを市民に理解してもらえる	1
受診行動のきっかけに対する期待(2)	・当院の来院につながると思う	1
	・当院に対する親しみをもってもらえて初診のきっかけとなるかもしれない	1
知識の提供(2)	・地域住民に広く知識と情報を提供できる	1
	・病院に受診する前に自宅で予防医学を学んでもらえることが最大のメリットだと思う	1
病院選択の選択肢の一つ(1)	・医療が必要となった時に当院を選択してもらえる	1
病院と地域を繋ぐ人脈(1)	・病院の医療職という人脈を使い、地域と病院をつなぐ「パイプ役」になり地域の人々が病院に行きやすくなると思う	1
信頼関係の構築(1)	・信頼関係を築ける	1
能動的診療である健康教育(1)	・日頃の外来診療は受動的であるが健康教育は能動的な診療と考える	1
受講者が住み慣れた環境で仲間と共有(1)	・出前講座の方が地域の人々にとっていろいろなメリットが多い(時間・場所・雰囲気、いつもの仲間と共有できる)	1
医療者としての責務(1)	・病院という現場で見て感じたことは、その者でなければ伝えられないと思う	1
地域貢献(1)	・地域貢献となる	1
職域拡大(1)	・ある講演会で医療従事者、特に薬剤師は地域に出ていくべきであると言われたことがある	1
医療者が地域生活を知る機会(1)	・病院の中では見ることができない人それぞれの生活を知ることが出来るため	1
若手医師の修練に良い機会(1)	・若手医師の自己修練にもいい機会である	1

※類似する自由記述内容に分類した結果をカテゴリー分けした。()内は総数である。

IV. 考察

1. 企画者の意識からみる出前講座

出前講座を知った方法は「友人・知人・同僚・家族などの知り合いを通じて」「ホームページ」「広告のちらし」の順であり、「口伝え(俗にいう口コミ)」という方法が一番多いことがわかった。出前講座を利用した理由には、【専門職の説明】【充実した内容】が多かったことから、出前講座は現場で医療を提供する専門職の充実した内容を求めて利用していることがわかった。

地域に出向き健康教育を行う良い点には、【現場で活躍している専門職の説明を受ける機会】【住み慣れた環境で学習ができる】が多く、次に【顔なじみになり相談しやすい】【病院が企画する内容への安心感】があげられていた。このことから、地域に出向いて健康教育を実践することは住み慣れた環境の中で、講師の人柄を知り安心して参加できる良い点があることがわかった。また【顔なじみになり相談しやすい】というカテゴリーからは、医療職が築く人脈が病院と地域住民の間をつなげていく効果も考えられた。

出前講座の利用後に、その講師が所属する病院へ「行きやすくなった」という回答と「どちらでもいけない」という回答が約半数ずつだった。その一方で、ほとんどの団体が出前講座を「今後も利用したい」と思っていた。このことから、出前講座を受講して健康教育を受けることが、講師の所属病院を選択することとは必ずしも結びつかないことがわかった。

健康教育は人々の健康に貢献する営みであるが、地域住民が健康教育を受けて「知識の変容がみられても行動変容へはなかなか進まないことが多い⁷⁾」と言われている。これは、「認知構造が変わらなければ行動の変化までは期待できない⁸⁾」ためである。出前講座を1回実施しても行動変容までは望めないが、「知識の提供」は可能である。

企画者にとり、病院の医療職が地域に出向き健康教育を行う良い点は、住み慣れた場所しながら、医療の専門家の話が聞け、顔なじみとなり相談しやすいことである。このことから、医療者は健康教育をすることで受診行動の窓口を開く役割がみえる。

企画者は医療とは無縁の地域住民の方々に対し、健康教育をうける機会を設け、病気の予防行動や対処行動がとれるための知識を提供したいという思いがあり、そのために聴講者が参加しやすい体制を整える目的で出向いてもらう良い点がある、という考えがあった。

2. 講師の意識からみる出前講座

出前講座を担当した講師は【地域貢献ができる良い機会】【多くの方と接する有意義な時間】【自己研鑽となった機会】という感想をもっていた。このことから、講師は地域で行われる出

前講座に対して前向きに捉えていると考える。

その反面、【教育評価ができないことの不安】という意見もでていた。講師が教育評価を念頭において出前講座(健康教育)を実践しているということは、「やればいい」という態度でなく、教育をすることで対象者の理解度を気にかけていることが伺える。

今後、講師を引き受ける意思については「引き受ける」が圧倒的に多かった。【教育評価ができない不安】【事前準備の負担】という意見もあったが、出前講座を引き受けるという意思が圧倒的に多かったことから、講師である医療職にとり出前講座は積極的に引き受けたい活動の一つである、と推測する。

講師を引き受ける理由には【条件】【地域貢献意識】【健康教育の必要性】といったカテゴリーがあった。【条件】の内容には「仕事の調整がつけば引き受ける」があった。出前講座に取り組もうとする際の妨げ要因については、「自分が病棟を離れることで多忙に拍車がかかることに気かけつつ出かけるのは少し辛い時がある」という意見があった。その心情は多忙な医療現場を如実に表現していた。

地域に出向き健康教育を行う良い点・改善点は【正しい知識の提供】【病院の宣伝】【予防医学の提供】【顔が見える安心感】が多かった。このことから、講師は現代医療を実践している医療職がもつ専門的知識を提供することで、病気の早期発見・治療に寄与することを期待していると考ええる。

しかしその一方で、講師は「地域に出向く」労力に対する対価として、「宣伝」といった営利目的を期待している部分もあった。この医療者が忙しく仕事の調整が難しいという点や出前講座を設けた当初は宣伝を期待していたという点は、数量化していないデータであるが、長野市立病院でも同様の意見⁹⁾がでていた。

地域に視野を向けることは、それだけ職域を広げる意味がある。病院の施設内勤務者が地域に出向くということは、医療の提供場所が「施設」だけでなく「地域」へとフィールドを拡大していることである。出前講座は医療職の専門的知識・技術を地域に還元し、健康の維持・増進に向けた病院機能の拡充を示していると考えられる。しかしその裏では、病院内の業務と出前講座の両立が求められている、ということもわかった。

V. まとめ

企画者が出前講座を利用した理由は専門職の説明や充実した内容を期待しており、病院の出前講座は住み慣れた環境で、現場で活躍している専門職の説明を聞ける機会を良い点として捉えていた。また、企画者の受診行動が講師の所属病院を選択するとは限らないが、今後も出前講座を利用したいと思っていた。受診する病院の選択と出前講座の受講は切り離して考えられ

ていた。

講師は出前講座の講師を担当して、地域貢献できる機会であり地域の人と接する有意義な時間であるという感想をもっていた。地域に出向き健康教育を実践する良い点には、正しい知識の提供や予防医学の提供の他、病院の宣伝を期待していた。出前講座に出向く際の妨げ要因には「仕事の調整がつかない」があげられていたが、依頼があれば講師を引き受けたいと思う講師が多かった。その理由には地域貢献意識や健康教育の必要性があげられていた。病院内の業務と出前講座の両立が課題にあげられた。

VI. 今後の課題

本稿は一事例であり対象者数も少数であることから一般化することは難しい。今後更なる調査の蓄積と検討が必要である。

またA病院が匿名であることから、地域性が反映されず発展性が期待されない参考資料にとどまった、ということも本稿の限界である。

謝 辞

本研究にご協力頂きました方々に感謝の意を表します。論文発表に際しまして、A病院から文書を通し承認を得ております。

なお、この論文の一部は第23回日本健康教育学会学術大会において口頭発表を致しました。

【註】

- 1) 村嶋幸代編：最新保健学講座2，地域看護支援技術，2-22，メディカルフレンド社(2008)
- 2) 黒木嘉人：出前講座の開催，全自病院雑誌，46，18-20(2007)
- 3) 塚崎朝子：看護師たちの出前講座で地域社会の健康増進に貢献，Nursing BUSINESS冬季増刊，138-143(2010)
- 4) 塚崎朝子：看護師等業務改革 地域に出かけて行っていますか，Nursing BUSINESS冬季増刊，2，56-60(2008)
- 5) 長野市民病院. <http://www.hospital.nagano.nagano.jp/news/2010/06/post-26.html> (2018年12月6日閲覧)
- 6) 塚崎朝子：看護師たちの出前講座で地域社会の健康増進に貢献，Nursing BUSINESS冬季増刊，138-143(2010)
- 7) 高橋浩之他：年齢段階による自己管理スキルの差の関する検討，日本健康教育学会誌，12，80(2004)
- 8) 岩永俊博：いま、健康教育の思考枠組みの変化が求められていないか，日本健康教育学会誌，15，1(2007)

- 9) 塚崎朝子：看護師たちの出前講座で地域社会の健康増進に貢献，Nursing BUSINESS冬季増刊，143 (2010)